



「寝釈迦」の云われは

これだった!?

形原町春日浦・ブルーブリッジ辺りから東の海を見ると、大島と小島がくっついて、人が寝ているような姿になります。それは、いつの頃からか「寝釈迦」と呼ばれるようになりました。しかし、伝えられる話はなかったようで……

「クイズまちがいさがし」で連載中の「創作昔話ねじゃかさん」とうふねこ座の市川雅子さんが絵、その友人西島諒さん（ニッシー）が文章を担当しました。

とうふねこ座は10周年、蒲郡市は60周年、2人の年の差は蒲郡市の半分・30歳。記念年にふさわしいタッグの成立です。

企画広報課 ☎66・1145

ニッシー：「寝釈迦」は知っていたけど、見たことがなかったんです。市川さんからこの話に誘われて、春日浦の近くの写真館で写真を見せてもらって書くことを決めました。お父さんの代から撮り続けているという写真は、空と雲と海、全部表情が違ってすごかった。話のイメージがわきました。話を読んで「寝釈迦」に興味を持った方は、本物を見に行ってください。

とうふねこ座：若くて発想豊かな人に書いてほしかった。ニッシーの作品に触れたことがあり、この人だ！と思いました。結果は思っていた以上に伝わってきた話を読んでいるみたいです。

「ねじゃかさん」は紙芝居にします。自然が作り出した「寝釈迦」の美しさを皆さんにも知ってもらいたいんです。紙芝居ができるまで、ニッシーとのタッグは解消できません。来年から、保育園や小学校などいろいろな場所でもやりたいです。

お互い感化されながら進んできた2人の旅は、お釈迦さまの旅よりも、ちょっとだけ長いものになりそうです。

今月号を含めて、残り3回の「ねじゃかさん」。
最後までお楽しみに！



博物館では、今まで、市内各区の歴史に関する展覧会をたびたび開催してきました。昨年の夏も企画展「西浦の歴史」と題しまして西浦町の名所やそれにまつわる伝説、漁師さんや石切り場で働いた人々の暮らし、温泉ができた頃など、同地区の歴史や魅力を紹介する展示を行いました。

◎形原の歴史と文化財◎

平成28年―来年の夏は「形原の歴史」に関する展覧会を開催する予定です。市内最古の土器が発見された「形原遺跡」、古代の文献にその名が見える「形原神社」、巨石「岩神さん」をおまつりした「岩上神社」、平安時代に作られた仏さまが安置されている「補陀寺」、形原松平氏の本拠地「形原城」、三河地震の被害を今に伝える「宗徳寺の

形原の古い写真を貸してください

地割れ」など、形原地区は数多くの史跡・文化財が存在するところです。企画展では、形原地区の歴史やその魅力、形原の地に暮らした先人の営みをたくさん紹介したいと思います。

◎みなさんへお願い◎

現在、博物館では、形原地区の古い写真を集めています。昭和40年代以前の形原地区の町並みを写したものの、今と昔ですっかり変わってしまった風景など、昔の写真を博物館に貸していただけませんか。写真は複製したのち返却します。もしご提供いただける場合は、博物館までご連絡ください。職員がお宅へお伺いします。充実した展覧会を作り上げるため、ご協力をお願いします。



形原神社の相撲大会（昭和20年代）